

旧三笠ホテルに見られる“匠の技”

匠



リビングルームの床組には建設当初の部材が残っています。当時の大引は製材していない材料を用いているため歪みやねじれがありますが、大工の技術でほぞ穴*の位置や高さを巧みに変え、床をフラットにしています。

* 2つの部材をつなぎ合わせるため、一方の材に設けた穴

匠



ダイニングルームに取り付けられているカーテンボックスには有島生馬がデザインした「三笠マーク」の周りに凝った装飾が施してあり、当時の職人の技量が感じられます。

匠



保存修理工事では、オリジナルの部材を出来る限り残す必要があります。大工が試行錯誤しながら、少しでも多く残そうと丁寧に補修しています。

事業概要

事業名：重要文化財旧三笠ホテル建造物保存修理事業

名称：重要文化財（建造物）旧三笠ホテル

建築年：明治38年（1905年）

指定年：昭和55年（1980年）

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢1339-342

事業期間：R元年6月3日～R7年度中（予定）

工事期間

第1期工事：R2年1月10日～R4年3月25日 **完了**

第2期工事：R4年3月16日～R6年12月25日予定

事業者：軽井沢町

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会

施工：第1期工事 清水建設株式会社

：第2期工事 清水建設株式会社

軽井沢町教育委員会生涯学習課文化振興係

Tel.0267-45-8695／Fax.0267-46-1152



※本事業は国（文化庁）及び長野県の補助金を受けて実施しています。

◆旧三笠ホテルに関する資料を探しています◆
旧三笠ホテルの古い写真や資料をお持ちの方、お心あたりの方は、ご連絡ください。

旧三笠ホテル建造物 保存修理だより

Vol.3

令和5年3月発行



令和2年1月から始まった保存修理工事（第1期）の解体工事が令和4年3月に完了しました。この工事では、建物の解体を行うと共に、実測調査と過去の痕跡調査を行いました。

解体工事完了と時期を同じくして、令和4年3月より保存修理工事の第2期がスタートしました。第2期工事では、解体した部材を補修し組み立てを行います。また、ホテルの施設や設備が充実した大正末期頃に外見を復原するため、建物正面の中央と東にそれぞれ車寄せ（玄関ポーチ）を復原します。

A.中央玄関車寄せ

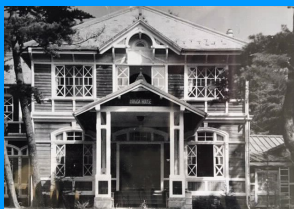
創業当初はバルコニー付きの車寄せがあり三笠ホテルの顔として多くの人を迎えていました。現在のNo.23号室を調査したところ、壁を増設した痕跡と解体した痕跡が発見されたため、当時のフロントはこの辺りにあったと思われます。中央玄関は昭和初期頃に現在の形となりました。



軽井沢町教育委員会所蔵

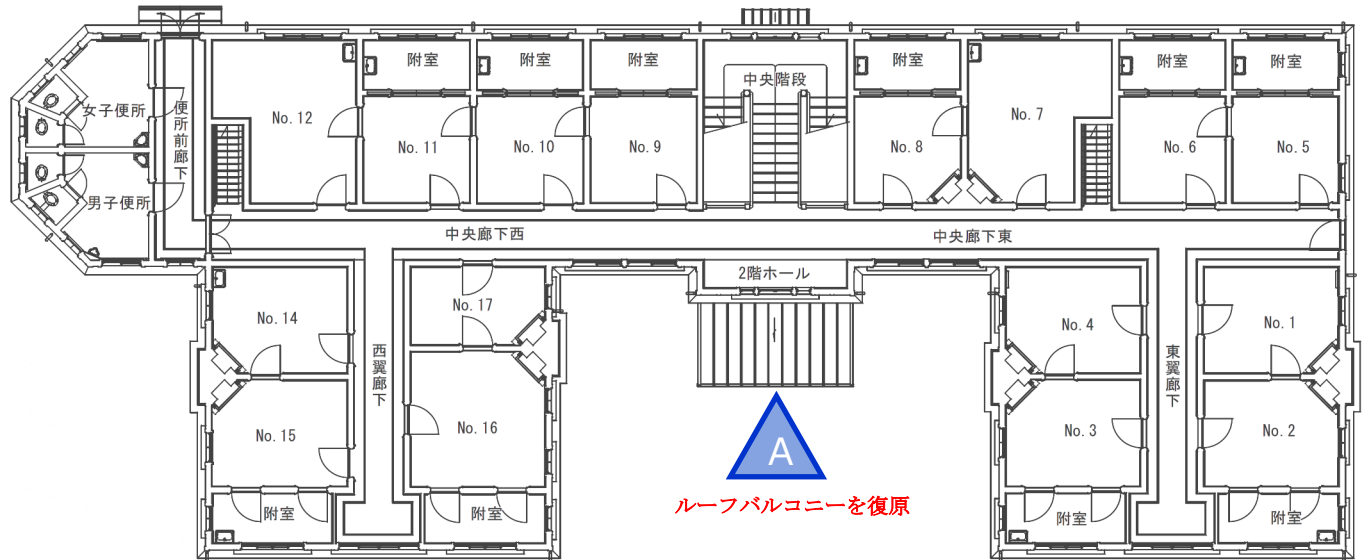
B.ダイニングルーム車寄せ

大正15年以降はダイニングルームに車寄せが設置されメインエントランスとして使用されていましたが、昭和49年の移築時に解体されました。

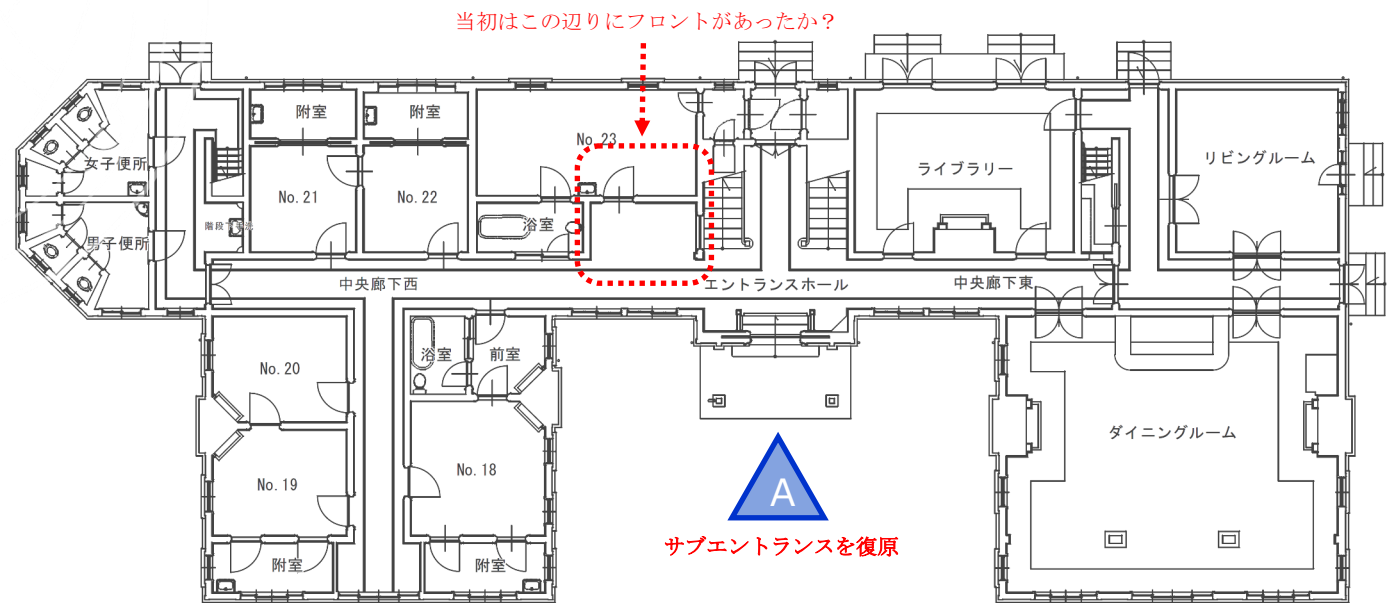


軽井沢高原文庫所蔵（撮影：福北光氏）

◆旧三笠ホテル保存活用計画を策定しました◆
詳しくは、軽井沢町公式HPをご覧ください。



2階平面図



1階平面図



メインエントランスを復原